

アジア文化研究所活動報告
(2009年1月-2009年12月)

1. 公開講演

1. 「シーボルト、朝鮮漂流民、長崎——19世紀初頭、朝鮮とヨーロッパの出会い——」河宇鳳
(韓国国立全北大学教授、歴史学) ICU 学部科目「日本史Ⅱ」2009年10月15日

2. アジア研究フォーラム

1. 「沖縄音楽における伝統と革新」マット・ギラン (ICU 准教授、音楽) 2009年2月3日
2. 「コンビニ：文化人類学から見る新興グローバル小売業のテンプレートについて」ギャヴィン
H. ホワイトロウ (ICU 准教授、人類学) 2009年5月12日
3. 「事大・交隣政策を通して見た小中華としての朝鮮」李正美 (明治学院大学講師、日韓関係史)
2009年5月26日
4. “Global Shamanism in Context: The Itako in Northeastern Japan and the Mikishi in Southeastern
Democratic Republic of Congo” [グローバル化のなかのシャーマニズム：東北日本のイタコと
コンゴ南東部のミキシの比較から] フェリックス・カプトウ (ICU アジア文化研究所研究員、
宗教学) 2009年6月2日
5. 「文法の楽しみ——日本語文法のハイパー辞典——」マルチェッラ・マリオッティ (日本学術
振興会外国人特別研究員、ICU アジア文化研究所研究員、言語学) 2009年10月6日
6. 「パフォーマティブ論の観点による言語、文化、アイデンティティの再構築の試みと言語教育
への可能性」尾辻恵美 (シドニー工科大学講師、日本語学) 2009年11月10日

3. シンポジウム (主催・共催企画)

1. 「沖縄を奏でる」“Performing Okinawa”
2009年3月7日 於 ICU 本部棟 206号室
司会・挨拶：マット・ギラン (ICU)
 1. 「沖縄のポピュラー音楽と民族アイデンティティの構築——新民謡から沖縄ポップへ——」
久万田晋 (沖縄県立芸術大学附属研究所)
 2. “Okinawan Right to Rock: Colonial Modernity, Cultural Appropriation and Cultural
Authenticity in Postwar Okinawa” [沖縄のロックをやる権利：戦後沖縄における殖民的近代
性、文化的アプロプリエーションと文化的オーセンティシティ] ジェームス・ロバート
ン (東京女学館大学)
 3. 「沖縄の建築にみる空間の構成と表層」金城正紀 (早稲田大学琉球・沖縄研究所)
 4. 「琉球舞踊の歴史の変容と三線の役割」金城厚 (沖縄県立芸術大学)
 5. 「関東における琉球芸能の戦後から現在——東京・川崎・鶴見を中心に——」持田明美
(音楽家)
2. 日仏共同シンポジウム「パロディと日本文化」(フランス国立東洋言語文化大学 (INALCO) 日
本研究所、パリ国際大学都市日本館、立教大学日本学研究所と共催)
2009年3月13-14日 於パリ国際大学都市日本館
開会挨拶 アンヌ・バヤール=サカイ (INALCO 日本研究所所長)
基調講演「元の妻、新しき妻——平安時代のパロディ——」ツベタナ・クリステワ (ICU)
第1セッション：司会 クレール・ブリッセ (パリ・ディドロ大学)
「お伽草子と狂言——料理・異類・争論——」小峯和明 (立教大学)
「中世における清少納言の「パロディ」」エヴリン・ルシーニユ=オドリ (INALCO / 東京大
学)
「江戸時代の禁教下での「伝承から生成するパロディ」」高崎恵 (ICU)
「『本朝文粹』におけるパロディと言葉遊び——「鉄鎚伝」をめぐって——」ジュリアン・フ
ォーリ (INALCO, EPHE)
第2セッション：司会 ミカエル・リュケン (INALCO 日本言語文化学部部長)
「西鶴のパロディ——『好色一代女』を中心に——」ダニエル・ストリュープ (パリ・ディド
ロ大学)
「1枚のパロディ絵画をめぐって——なぞなぞ・笑い・文学——」安原真琴 (ICU)

「江戸の寺社開帳を見世物化した「とんだ霊宝」とその艶本的パロディ」クリストフ・マルケ (INALCO)

「パロディとしての「のらくろ」」宮沢恵理子 (ICU)

「現代日本のまんが文化におけるパロディ」田頭正太郎 (ICU)

3月14日(土)

第3セッション：司会 エステル・レジェリ=ボエール (INALCO)

「明治時代におけるパロディと政治：中江兆民の『三酔人経綸問答』と「喜悦の哲学」」エディ・デュフルモン (INALCO)

「朴趾源の『兩班伝』に見える社会身分構造のパロディ」ケネス・ロビンソン (ICU)

「書とパロディ——中村不折の龍眠帖——」レイリ・ドール (INALCO)

「パロディにみる中国の文人官僚」古藤友子 (ICU)

3. 国際シンポジウム「パロディと日本文化」

2009年11月27-28日 於ICU本部棟206号室

11月27日(金)

開催挨拶

「パロディ・見立て・テキスト——鈴木春信の「座敷八景」——」ハルオ・シラネ (コロンビア大学)

「江戸時代見立図像化の形成」渡辺雅子 (メトロポリタン美術館)

「近世文藝においてパロディとは何だったのか——マクロのパロディからミクロのパロディへ——」柴谷智幸 (茨城キリスト教大学)

「やつしと見立絵にみるジェンダー」ジョシユア・モストウ (プリティッシュ・コロンビア大学)

「パロディ繚乱の江戸文化——「性」と「聖」とを繋ぐ笑い——」小島康敬 (ICU)

「江戸時代の民画におけるパロディの精神——大津絵再考——」クリストフ・マルケ (フランス国立東洋言語文化研究学院)

「歌仙の絵と〈もどき〉」高橋亨 (名古屋大学)

「文学や図像における「死」の演出からパロディへ」フォーリ・ジュリアン (フランス国立東洋言語文化研究学院)

「排耶書にみるパロディ性」高崎恵 (ICU)

11月28日(土)

「パロディと主体」竹村信治 (広島大学)

「擬古の技巧——詩的カノンのパロディとしての中世王朝物語——」ツベタナ・クリステワ (ICU)

「物語再生装置としてのパロディ——『平家物語』を軸に——」小峯和明 (立教大学)

「『源氏物語』における継母子譚の位相」張龍妹 (北京日本学研究中心)

「継子譚のパロディと話型」金鍾徳 (韓国外国語大学)

「中国食文化にみるパロディ——「仮(もどき)」料理管見——」古藤友子 (ICU)

“Meiji Twitterings: A Parody of Fukuzawa's *Encouragement of Learning*” [明治初期の囁き] (twitter) ——新旧メディアと『学門ノス、メ』のパロディー—— ウィリアム・スティーラ (ICU)

「パッチワーク・パロディ——横糸としてのネタ、縦糸としてのサブテキスト——」田頭正太郎 (ICU)

総合ディスカッション

4. 『ヒンド・スワラージ』100周年記念シンポジウム「歴史的地下水としてのガンディーの平和思想と行動」2009年12月19日 於ICU本館251号室

趣旨説明 石坂晋哉 (京都大学東南アジア研究所研究員)

「生命線としてのヒンド・スワラージ」葛西實 (ICU 名誉教授)

「ガンディー運動の有効性——人は暴力をどこまで減らすことができるか——」長崎暢子氏 (東京大学名誉教授・龍谷大学名誉教授)

司会：馬内里美 (東北文化学園大学講師)

宇野彩子 (ICU アジア文化研究所研究員)

4. 後援企画

1. ドキュメンタリー映画『アメリカばんざい』(藤本幸久監督、2008年) ICU 教養学部アーツ・

サイエンス学科 日本研究専修分野と共同企画 2009年1月14日

2. 国際シンポジウム「世界金融危機——アジアへの影響：アジアの政策対応と国際通貨基金の役割——」 於ディッフェンドルファー記念館、2009年2月23日 社会科学研究所に協賛
3. ニアス島ネットワークプロジェクト (2007年1月-2009年9月) トヨタ財団助成
4. 日本キリスト教史学会第60回大会 2009年11月21日-22日 於ICU本館213、215、304号室

5. 出版物

『アジア文化研究』35号 (2009年3月30日発行)

論文

Collection, Classification and Conception of *Xiaoshuo* in the *Tai ping Guangji*

..... Xiaohuan Zhao

Two Salvation Stories: “Xi Wangmu” and “Yunhua Furen” in *The Extensive Records of the Tai ping Period*

..... Yin-ping Grace Lau

広西における上帝会の発展と金田団營

..... 菊池秀明

中国における初期プロテスタント布教の歴史

——宣教師の「異教徒」との出会いを通して——

..... 倉田明子

Kishinron and Religious Policy in Early Modern Japan: Political Interests in Local Beliefs

..... Suzuki Takako

Images of Japan in Four Korean World Maps Compiled in the Fifteenth and Sixteenth Centuries

..... Kenneth R. Robinson

The Four Seven Debate (四端七情論) I: Its Philosophical Background—Ambiguity in Zhu

Xi’s (1130–1200) *Li-Qi* Theory (理氣論, Principle and Material Force) and His Theory of

Mind (心)

..... Ken Byung-Kun Park

Justice Radhabinod Pal and the Tokyo War Crimes Tribunal: A Political Retrospective of His

Historic Dissent

..... Vivek Pinto

Assassins, Madonnas, and Career Women: Reflections on Six Decades of Women’s Suffrage

in Japan

..... Sally Ann Hastings

悪者づくり——オウム真理教事件の物語化を巡って——

..... 生駒夏美

Teacher Perceptions on Teaching Moral Values in Japan

..... Setsuko Buckley

Inequalities in English Language Education in Bangladesh: Observations and Policy Options

from Rural and Urban Schools

..... Tania Hossain

Mediation Theory and Norway’s Facilitation Role in the Sri Lankan Conflict

..... Shammika Hasantha Dehiwala Liyana Aratchchige

Crime Narratives of Postsocialist China

..... Yinghong Li

漂泊する太郎冠者——伝統と創造のはざままで——

..... 志村岳彦

資料紹介

中国人の目から見た近代中日文化交流年表

..... 王晓秋 (訳注: 飛田良文、江源、村田和美、川副悠史)

Townsend Harris on the Art of Diplomacy: Some Documents in Translation

..... M. William Steele

研究ノート

キリシタンの棄教を表す「ころぶ(転ぶ)」という言葉について

..... 岸本恵実

パロディとしての「のらくろ」

..... 宮沢恵理子

アジア文化研究所活動報告

執筆者紹介

6. 長清子アジア研究学術奨励賞 (2009年3月 Friends of ICU 指定寄付)

伊藤夏湖「彼らの「東北」、俺らだの「東北」: 「東北」イメージの生産と消費」 教養学部アー
ツ・サイエンス学科

7. 人事動向

1. 所長

- 2009.9 小島康敬教授就任
- 2. 所員
 - 2009.2 Heather A. Montgomery 准教授就任
 - 2009.10 尾崎(渡邊)久美子 課程准教授就任
- 3. 研究員(無給)
 - 2009.4 有澤知乃(ロンドン大学東洋アフリカ研究院、民族音楽学)(2010.3.31 まで)
Felix Kaputu(ルバンバシ大学、宗教学)(2010.3.31 まで)
李 正美(明治学院大学、歴史学)(2010.3.31 まで)
田中祐介(ICU、近現代日本史)(2010.3.31 まで)
 - 2009.9 Armin Mester(カリフォルニア大学、言語学)(2010.3.31 まで)
- 4. 準研究員(無給)
 - 2009.4 Abliz Kurban(京都大学、法学)(2009.9.1 まで)
大橋菜都子(江戸東京博物館、美術・考古学)(2010.3.31 まで)
- 5. 秘書(非常勤)
 - 2009.7 小平尚子 退職
松村有子 就任

8. 構成員(2009年12月31日現在・ABC順)

1. 所長 小島康敬(歴史学、教授)
2. 所員
 - Matthew A. Gillan(音楽、准教授)
 - 黄 仁相(経済学/経営学/開発研究、上級准教授)
 - 池田理知子(メディア・コミュニケーションと文化/日本研究、教授)
 - 生駒夏美(文学、上級准教授)
 - 加藤恵津子(人類学、上級准教授)
 - 菊池秀明(歴史学、教授)
 - 岸本恵実(メディア・コミュニケーションと文化、准教授)
 - 古藤友子(哲学・宗教学、教授)
 - Tzvetana Ilieva Kristeva(文学、教授)
 - Mark W. Langager(比較教育/教育・メディア・社会、准教授)
 - John C. Maher(メディア・コミュニケーションと文化、教授)
 - Shaun K. Malarney(人類学、教授)
 - Heather A. Montgomery(経済学/経営学、准教授)
 - 那須 敬(歴史学、准教授)
 - 大石奈々(社会学、准教授)
 - 尾崎(渡邊)久美子(言語教育、講師(課程准教授))
 - Temario C. Rivera(政治学/国際関係学/アジア研究、教授)
 - Kenneth R. Robinson(歴史学、上級准教授)
 - 佐藤 豊(言語教育、教授)
 - M. William Steele(歴史学、教授)
 - 高澤紀恵(歴史学、教授)
 - 田中和子(社会学、教授)
 - 田仲康博(メディア・コミュニケーションと文化、准教授)
 - Wilhelm M. Vosse(平和研究/政治学/国際関係学、上級准教授)
 - Gavin H. Whitelaw(社会学/人類学、准教授)
 - Richard L. Wilson(美術・考古学、教授)
3. 顧問 長(武田)清子、葛西實、源了圓、魚住昌良
4. 客員所員 原喜美、飛田良文、一瀬智司、稲垣滋子、森本光生、中村妙子、新津晃一、染谷臣道
5. 研究員
 - 有澤知乃(ロンドン大学東洋アフリカ研究院、民族音楽学)(2009.4-2010.3.31)
 - Setsuko Buckley(ワトコムコミュニティーカレッジ、多文化教育)(2009.4.1-2010.3.31)
 - Robert Eskildsen(桜美林大学、日本史)(2009.4.1-2010.3.31)

後藤はる美 (放送大学、近代イギリス史) (2009.4.1-2010.3.31)
 早川朝子 (東都医療大学、ドイツ近世史) (2009.4.1-2010.3.31)
 Tania Hossain (早稲田大学、言語教育) (2009.4.1-2010.3.31)
 石坂晋哉 (立命館アジア太平洋大学、南アジア地域研究) (2009.4.1-2010.3.31)
 金山梨花 (ICU、行政学) (2009.4.1-2010.3.31)
 Felix Kaputu (ルバンバシ大学、宗教学) (2009.4.1-2010.3.31)
 李 正美 (明治学院大学、歴史学) (2009.4.1-2010.3.31)
 李 迎紅 (桜美林大学、中国文学) (2009.4.1-2010.3.31)
 眞嶋亜有 (ハーバード大学ライシャワー日本研究所、近代日本社会文化史) (2009.4.1-2010.3.31)
 Marcella Maria Mariotti (ICU、言語学) (2009.4.1-2010.3.31)
 松中完二 (敬愛大学、言語学) (2009.4.1-2010.3.31)
 Armin Mester (カリフォルニア大学、言語学) (2009.9.1-2010.3.31)
 御巫由美子 (コロンビア大学、政治学) (2009.4.1-2010.3.31)
 三宅俊夫 (京都大学、文化社会学・日本研究) (2009.4.1-2010.3.31)
 宮永國子 (個の可能性研究所、社会人類学) (2009.4.1-2010.3.31)
 宮沢恵理子 (ICU、歴史学) (2009.4.1-2010.3.31)
 森 葉月 (ICU、日本思想史) (2009.4.1-2010.3.31)
 尾辻恵美 (シドニー工科大学、日本語学) (2009.9.1-2010.3.31)
 朴 炳建 (ICU、朝鮮思想史) (2009.4.1-2010.3.31)
 Vivek Paul Pinto (ICU、アジア史) (2009.4.1-2010.3.31)
 坂元ひろ子 (一橋大学大学院、近現代中国思想史) (2009.4.1-2010.3.31)
 末續万里枝 (ブリティッシュアカデミー、国際関係学) (2009.4.1-2010.3.31)
 杉本雅子 (ICU、言語学) (2009.4.1-2010.3.31)
 鈴木孝子 (大妻女子大学、哲学) (2009.4.1-2010.3.31)
 田畑幸嗣 (ICU、考古学) (2009.4.1-2010.3.31)
 高崎 恵 (ICU、社会人類学) (2009.4.1-2010.3.31)
 田中祐介 (ICU、近現代日本史) (2009.4.1-2010.3.31)
 谷村玲子 (ICU、日本文化史・日本思想史) (2009.4.1-2010.3.31)
 Mizuko Ugo (東京文化財研究所、歴史学) (2009.4.1-2010.3.31)
 宇野彩子 (ICU、歴史学) (2009.4.1-2010.3.31)
 Anne Walthall (カリフォルニア大学アーヴィン校、歴史学) (2009.4.1-2009.7.29)

6. 準研究員

石渡香奈子 (ICU、社会学) (2009.4.1-2010.3.31)
 Abliz Kurban (京都大学、法学) (2009.4.1-2010.3.31)
 倉田明子 (ICU、中国近代史) (2009.4.1-2010.3.31)
 宮田奈々 (ボン大学日本文化研究所、宗教学) (2009.4.1-2010.3.31)
 仲條大亮 (ICU、音楽学) (2009.4.1-2010.3.31)
 西田昌之 (オーストラリア国立大学、人類学) (2009.4.1-2010.3.31)
 大橋菜都子 (江戸東京博物館、美術・考古学) (2009.4.1-2010.3.31)
 岡本佳子 (ICU、歴史学) (2009.4.1-2010.3.31)
 竹下和亮 (ICU、フランス近世史) (2009.4.1-2010.3.31)
 戸田真紀 (ICU、福祉社会学) (2009.4.1-2010.3.31)
 戦 海燕 (東京大学大学院、比較文化) (2009.4.1-2010.3.31)

7. 研究助手 (非常勤)

鄭 戴勲 (歴史学)
 宮沢恵理子 (歴史学)
 岡本佳子 (歴史学)
 高崎 恵 (人類学)
 田中祐介 (歴史学)

8. 秘書 (非常勤)

相川興子、松田理恵、松村有子

Activities of the Institute of Asian Cultural Studies January 2009–December 2009

1. Open Lectures

1. “Siebold, Korean Castaways, and Nagasaki: The Meeting of Korea and Europe in the Early 19th Century,” Ha Woo-bong, (Professor, Chonbuk National University, Korea, History) History of Japan II (Specialized Course, CLA, ICU), October 15, 2009.

2. Asian Forum

1. “Locating Okinawa: Tradition and Innovation in New Okinawan Music,” Matthew A. Gillan (Associate Professor, ICU, Art and Music), February 3, 2009.
2. “Konbini: Towards an Anthropology of an Emergent Global Retail Template,” Gavin H. Whitelaw (Associate Professor, ICU, Anthropology), May 12, 2009.
3. “Chosŏn Korea as Little China as Seen through the *Sadae Kyorin* Policy in the Seventeenth Century,” Jeong-Mi Lee (Lecturer, Meiji Gakuin University, Japan-Korea Relations), May 26, 2009.
4. “Global Shamanism in Context: The Itako in Northeastern Japan and the Mikishi in Southeastern Democratic Republic of Congo,” Felix Ulombe Kaputu (Research Fellow, IACS, ICU, Mythology and Religion), June 2, 2009.
5. “The Pleasure of Grammar: A Hypermedia Dictionary of Japanese Grammar,” Marcella Mariotti, (JSPS Post-Doctoral Research Fellow, Research Fellow, IACS, ICU, Linguistics), October 6, 2009.
6. “Performing Language, Culture and Identities: Disinvention and Reconstitution of Language and Culture,” Otsuji Emi, (Lecturer, Japanese Language Coordinator, University of Technology, Sydney, Japanese Language), November 10, 2009.

3. International Symposium

1. “Performing Okinawa”
Date: March 7, 2009
Place: Administration Building 206, ICU
Opening remarks: Matthew A. Gillan (ICU, Chairperson),
“Okinawan Popular Music and the Construction of Ethnic Identity: From Shin-min’yō to Okinawa Pop,” Kumada Susumu (The Research Institute of Okinawa Prefectural University of Arts)
“Okinawa Right to Rock: Colonial Modernity, Cultural Appropriation and Cultural Authenticity in Postwar Okinawa,” James Roberson (Tokyo Jogakkan Collage)
“The Symbolic Use of Space in Okinawan Architecture,” Kinjyō Masanori (The Institute for Ryukyuan and Okinawan Studies in Waseda University)
“The Role of the Sanshin in the Context of Change of Ryukyuan Court Dance,” Kaneshiro Atsushi (Okinawa Prefectural University of Arts)
“Okinawan Performing Arts in Tokyo, Kawasaki and Tsurumi from World War II to the Present,” Mochida Akemi (Musician)

Mochida Akemi (Musician)

Simultaneous Translation: Hongō Yoshikazu and his students

2. La parodie dans la culture japonaise
Vendredi 13 et Samedi 14 Mars 2009
Maison du Japon, Cité Internationale Universitaire de Paris, Grand Salon (rez-de-chaussée)
Organisé par le Centre d’Études Japonaise de l’Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) et le Centre de Recherche sur les Civilisations de l’Asie (IACS) et l’Université Kokusai Kiritutokyō Daigaku (ICU)

Avec la coopération la Maison du Japon de la Cité Internationale Universitaire et du Centre d'Études sur le Japon de l'Université Rikkyō

Vendredi 13 mars

Conférence d'ouverture : Anne Bayard-Sakai (Directeur, Le Centre d'études japonaise de INALCO)

Conférence : "Épouse d'origine, nouvelle épouse : la parodie à l'époque de Heian," Tzvetana Kristeva (ICU)

La première séance, Présentatrice : Claire Brisset (Université Paris Diderot)

"Otogizōshi et kyōgen : aliments, animaux, polémiques," Komine Kazuaki (l'Université Rikkyō)

"Caricatures de Sei Shōnagon au Moyen Âge," Evelyne Lesigne-Audoly (Docteurante, INALCO, CEJ, Université de Tôkyō)

"Naissance de la parodie à partir de la transmission," Takasaki Megumi, (IACS, ICU)

"Parodie et jeux de mots dans le *Honchōmonzui* (L'Essence des belles lettres de notre pays) : autour de la « Biographie de marteau de fer »,» Julien Faury, (INALCO, EPHE)

La deuxième séance, Présentateur : Michael Lucken (INALCO, Département Langue et Civilisation du Japon)

"Saikaku et la parodie : A propos de la *Vie d'une amie de la volupté*," Daniel Struve, (Université Paris Diderot)

"Autour d'une image parodique : devinettes, rire, littérature," Yasuhara Makoto (l'Université Rikkyō)

"Une parodie érotique des « trésors extravagants », attractions foraines de la fin de l'époque d'Edo imitant les expositions de trésors bouddhiques," Christophe Marquet, (INALCO)

"La bande dessinée Norakuro considérée comme une parodie," Miyazawa Eriko, (IACS, ICU)

"La parodie dans la culture de la bande dessinée du Japon d'aujourd'hui," Tagashira Shōtarō (ICU)

Samedi 14 mars

La troisième séance, Présentatrice : Estelle Leggeri-Bauer (INALCO)

"Parodie et politique à l'époque Meiji : les Dialogues politiques entre trios ivrognes et la « philosophie de la joie » de Nakae Chōmin," Eddy Dufourmont, (INALCO, Université Michel de Montaigne Bordeaux 3)

"La Parodie de la structure des statuts sociaux la *Yanbanjon* de Pak Chiwon," Kenneth R. Robinson (ICU)

"Manuel ou parodie ? : Le *Ryūminjō* de Nakamura Fusetsu," Laïli Dor (INALCO)

"Les parodies de mandarins chinois," Koto Tomoko (ICU)

3. International Symposium "Parodī to Nihon bunka"

Date: November 27–28, 2009

Place: Administration Building 206, ICU

November 27

Greeting: Kojima Yasunori (Director of IACS), Tzvetana Kristeva (ICU)

"Parodī, Mitate, Tekisuto: Suzuki Harunobu no *Zashiki Hakkei*," Haruo Shirane (Columbia University)

"Edo jidai mitate-zuzōka no keisei," Watanabe Masako (The Metropolitan Museum of Art)

"Kinsei bungei ni oite parodī towa nandattanoka: Makuro no parodī kara mikuro no parodī e," Someya Tomoyuki (Ibaraki Christian University)

"Yatsushi to mitate-e ni miru jendā" Joshua Mostow (University of British Columbia)

"Parodī ryōran no Edo bunka: Sei [性] to sei [聖] towō tsunagu warai," Kojima Yasu-

nori (ICU)

“Edojidai no minga ni okeru parodī no seishin: Ōtsu-e saikō,” Christophe Marquet (INALCO)

“Kasen no e to ‘Modoki,’” Takahashi Tōru (Nagoya University)

“Bungaku ya zuzō ni okeru ‘shi’ no ensyutsu kara parodī e,” Julien Faury, (INALCO)

“Haiyasho ni miru parodī-sei” Takasaki Megumi (ICU)

November 28

“Parodī to syutai” Takemura Shinji (Hiroshima University)

“Giko no gikō: Shiteki kanon no parodī toshitenō chūsei ōcho monogatari,” Tzvetana Kristeva (ICU)

“Monogatari saisei sōchi toshitenō parodī: *Heike monogatari* wo jiku ni” Komine Kazuaki (Rikkyo University)

“Genji monogatari ni okeru mamaboshi-tan no isō” Zhang Longmei (The Beijing Center for Japanese Studies, Beijing Foreign Study University)

“Mamako-tan no parodī to wakei” Kim Jong-Duck (Hankuk University of Foreign Studies)

“Chūgoku syokubunka ni miru parodī: ‘Modoki [仮]’ ryōri kanken,” Koto Tomoko (ICU)

“Meiji Twitterings: A Parody of Fukuzawa’s *Encouragement of Learning*,” M. William Steele (ICU)

“Pacchiwāku parodī: Yokoi to shiteno neta, tateito to shiteno sabutekusuto,” Tagashira Shotaro (ICU)

Discussion

4. Hind Swaraj Centenary Symposium

“Gandhi’s Non Violent Movement as the Historical Undercurrent Stream”

Date: December 19, 2009

Place: University Hall, 251

Introduction: “The Hind Swaraj Centenary Conference in Delhi,” Ishizaka Shinya (Kyoto University)

“Hind Swaraj as Life Line,” Kasai Minoru (Professor Emeritus at ICU)

“The Relevance of Gandhi’s Movement to the World Surrounding Us: How Can We Make Violence Ineffective?” Nagasaki Nobuko (Professor Emeritus of Tokyo University)

Chair: Mauchi Satomi (Tohoku Bunka Gakuen University)

Uno Ayako (ICU)

4. Co-sponsored Project

1. Documentary Film “Amerika Banzai [Crazy as Usual]”

Date: January 14, 2009

Co-sponsored with Japan Studies (The Division of Arts and Science, CLA, ICU)

2. International Symposium “The Global Financial Crisis: Implications for Asia: An International Symposium on Asia’s Policy Response to the Crisis and the Role of the International Monetary Fund”

Date: February 23, 2009

Place: Diffendorfer Memorial Hall

Co-sponsored with SSRI

3. Nias Island Networking Project (sponsored by the Toyota Foundation, 2007.1–2009.9)

4. Society of Historical Studies of Christianity, Japan, 60th Annual Meeting

Date: November 21–22, 2009

Place: University Hall, 213, 215, 304

Co-sponsored with Society of Historical Studies of Christianity, Japan

5. Publications

1. *Asian Cultural Studies*, Vol. 35 (March 30, 2009)

Articles

- Collection, Classification and Conception of *Xiaoshuo* in the *Taiiping Guangji* Xiaohuan Zhao
- Two Salvation Stories: “Xi Wangmu” and “Yunhua Furen” in *The Extensive Records of the Taiiping Period* Yin-ping Grace Lau
- The Development of the Shangdihui Sect and the Jintian Uprising in Guanxi Province Kikuchi Hideaki
- The History of Early Protestantism in China: Missionaries’ Encounters with “Converts of a Different Culture” Kurata Akiko
- Kishinron* and Religious Policy in Early Modern Japan: Political Interests in Local Beliefs Suzuki Takako
- Images of Japan in Four Korean World Maps Compiled in the Fifteenth and Sixteenth Centuries Kenneth R. Robinson
- The Four Seven Debate (四端七情論) I: Its Philosophical Background—Ambiguity in Zhu Xi’s (1130–1200) *Li-Qi* Theory (理氣論, Principle and Material Force) and His Theory of Mind (心) Ken Byung-Kun Park
- Justice Radhabinod Pal and the Tokyo War Crimes Tribunal: A Political Retrospective of His Historic Dissent Vivek Pinto
- Assassins, Madonnas, and Career Women: Reflections on Six Decades of Women’s Suffrage in Japan Sally Ann Hastings
- The Making of the Evil: Analyzing the Stories about the Aum Shinrikyō Terrorism Ikoma Natsumi
- Teacher Perceptions on Teaching Moral Values in Japan Setsuko Buckley
- Inequalities in English Language Education in Bangladesh: Observations and Policy Options from Rural and Urban Schools Tania Hossain
- Mediation Theory and Norway’s Facilitation Role in the Sri Lankan Conflict Shammika Hasantha Dehiwala Liyana Aratchchige
- Crime Narratives of Postsocialist China Yinghong Li
- Tarō Kaja* at Drift: Playing between Convention and Invention ... Shimura Takehiko
- Historical Documents
- A Chronology of Modern Chinese–Japanese Interaction as Seen by Chinese Wang Xiaoqiu (Translated by Hida Yoshifumi, Jian Yuan, Murata Kazumi, and Kawazoe Yuji)
- Townsend Harris on the Art of Diplomacy: Some Documents in Translation M. William Steele
- Research Note
- The Japanese Word *Korobu*, Meaning “The Renunciation of Kirishitans’ Faith” Kishimoto Emi
- Norakuro* as Parody Miyazawa Eriko
- Activities of the Institute of Asian Cultural Studies (January 2008–December 2008)
- List of Contributors

6. **Kiyoko Chō Academic Award in Asian Studies** (March 2009, Restricted Donations to Friends of ICU)

Ito Natsumi, “THEIR ‘Tohoku,’ OUR ‘Tohoku’ : Production and Consumption of Images of ‘Tohoku,’ ” the Division of Arts and Sciences, the College of Liberal Arts.

7. Personnel

1. Director

September 2009 Professor Kojima Yasunori was appointed as Director of the Institute

2. Institute Members
 - January 2009 Associate Professor Heather A. Montgomery joined the Institute
 - October 2009 Lecturer Osaki (Watanabe) Kumiko joined the Institute

3. Research Fellows (non-salaried)
 - April 2009 Arisawa Shino (School of Oriental and African Studies, University of London, Ethnomusicology) (to March 2010)
 - Felix Kaputu (University of Mubumbashi, Mythology and Religion) (to March 2010)
 - Jeong-Mi Lee (Meiji Gakuin University, History) (to March 2010)
 - Tanaka Yūsuke (ICU, History) (to March 2010)
 - September 2009 Armin Mester (University of California, Santa Cruz, Linguistics, Phonology of Japanese) (to March 2010)

4. Research Associates (non-salaried)
 - April 2009 Abliz Kurban (Kyoto University, Law) (to September 2009)
 - Ohashi Natsuko (Edo Tokyo Museum, Art and Archaeology) (to March 2010)

5. Part-time Secretaries
 - July 2009 Kodaira Naoko left the Institute
 - Matsumura Yūko joined the Institute

- 8. Members of the Institute, as of December 31, 2009 (Alphabetical Order)**
 1. Director:
 - Kojima Yasunori (Professor of History)

 2. Institute Members:
 - Matthew A. Gillan (Associate Professor of Musicology)
 - Hwang Insang (Senior Associate Professor of Economics/Business/Development Studies)
 - Ikeda Richiko (Professor of Media, Communication and Culture/Japan Studies)
 - Ikoma Natsumi (Senior Associate Professor of English Literature)
 - Kato Etsuko (Senior Associate Professor of Anthropology)
 - Kikuchi Hideaki (Professor of History)
 - Kishimoto Emi (Associate Professor of Media, Communication and Culture)
 - Koto Tomoko (Professor of Philosophy and Religion)
 - Tzvetana Ilieva Kristeva (Professor of Japanese Literature)
 - Mark W. Langager (Associate Professor of Comparative Education/Education, Media and Society)
 - John C. Maher (Professor of Media Communication and Culture)
 - Shaun K. Malarney (Professor of Anthropology)
 - Heather A. Montgomery (Associate Professor of Economics/Business)
 - Nasu Kei (Associate Professor of History)
 - Oishi Nana (Associate Professor of Sociology)
 - Osaki (Watanabe) Kumiko (Lecturer of Language Education)
 - Temario Rivera (Professor of Politics, International Relations/Asian Studies)
 - Kenneth R. Robinson (Senior Associate Professor of History)
 - Sato Yutaka (Professor of Language Education)
 - M. William Steele (Professor of History)
 - Takazawa Norie (Professor of History)
 - Tanaka Kazuko (Professor of Sociology)

Tanaka Yasuhiro (Associate Professor of Media, Communication and Culture)
Wilhelm M. Vosse (Senior Associate Professor of Peace Studies/International Relations/Politics)
Gavin H. Whitelaw (Associate Professor of Sociology/Anthropology)
Richard L. Wilson (Professor of Art and Archaeology)

3. Advisors:

Chō Takeda Kiyoko, Kasai Minoru, Minamoto Ryōen, Uozumi Masayoshi

4. Senior Research Associates:

Hara Kimi, Hida Yoshifumi, Ichinose Tomoji, Inagaki Shigeko, Morimoto Mitsuo, Nakamura Taeko, Niitsu Kōichi, Someya Yoshimichi

5. Research Fellows:

Arisawa Shino (School of Oriental and African Studies, University of London, Ethnomusicology) (2009.4–2010.3.31)

Setsuko Buckley (Whatcom Community College, Multicultural Education) (2009.4.1–2010.3.31)

Robert Eskildsen (J. F. Obirin University, Japanese History) (2009.4.1–2010.3.31)

Goto-Kudo Harumi (Tohto College of Health Science, History) (2009.4.1–2010.3.31)

Hayakawa Asako (ICU, History) (2009.4.1–2010.3.31)

Tania Hossain (Waseda University, Language Education) (2009.4.1–2010.3.31)

Ishizaka Shinya (Ritsumeikan Asia Pacific University, Asian Area Studies) (2009.4.1–2010.3.31)

Kanayama Rika (ICU, Public Administration) (2009.4.1–2010.3.31)

Felix Kaputu (University of Lubumbashi, Mythology and Religion) (2009.4.1–2010.3.31)

Jeong-Mi Lee (Meiji Gakuin University, History) (2009.4.1–2010.3.31)

Yinghong Li (J. F. Obirin University, Chinese Literature) (2009.4.1–2010.3.31)

Majima Ayu (Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University, Modern Japanese Social History) (2009.4.1–2010.3.31)

Marcella Maria Mariotti (ICU, Linguistics) (2009.4.1–2010.3.31)

Matsunaka Kanji (Keiai University, Linguistics) (2009.4.1–2010.3.31)

Armin Mester (University of California, Santa Cruz, Linguistics, Phonology of Japanese) (2009.9.1–2010.3.31)

Mikanagi Yumiko (Columbia University, Politics) (2009.4.1–2010.3.31)

Miyake Toshio (Kyoto University, Sociology of Culture, Japanese Studies) (2009.4.1–2010.3.31)

Miyanaga Kuniko (Harvard University, Anthropology) (2009.4.1–2010.3.31)

Miyazawa Eriko (ICU, History) (2009.4.1–2010.3.31)

Mori Hazuki (ICU, Intellectual History of Japan) (2009.4.1–2010.3.31)

Otsuji Emi (University of Technology, Sydney, Japanese Language) (2009.9.1–2010.3.31)

Byung-Kun Park (ICU, Korean History) (2009.4.1–2010.3.31)

Vivek Paul Pinto (ICU, Philosophy and Religion) (2009.4.1–2010.3.31)

Sakamoto Hiroko (Hitotsubashi University, History of Modern Chinese Thought) (2009.4.1–2010.3.31)

Suetsugu Marie (British Academy, International Relations) (2009.4.1–2010.3.31)

Sugimoto Masako (ICU, Linguistics) (2009.4.1–2010.3.31)

Suzuki Takako (Otsuma Women's University, Philosophy) (2009.4.1–2010.3.31)

Tabata Yukitsugu (ICU, Archaeology) (2009.4.1–2010.3.31)

Takasaki Megumi (ICU, Anthropology) (2009.4.1–2010.3.31)

Tanaka Yūsuke (ICU, History) (2009.4.1–2010.3.31)
Tanimura Reiko (ICU, History of Modern Japan) (2009.4.1–2010.3.31)
Mizuko Ugo (National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo-International Center for Cooperation in Conservation) (2009.4.1–2010.3.31)
Uno Ayako (ICU, History) (2009.4.1–2010.3.31)
Anne Walthall (University of California, Irvine, History) (2009.4.1–2009.7.29)

6. Research Associates:

Ishiwatari Kanako (ICU, Sociology) (2009.4.1–2010.3.31)
Kurata Akiko (ICU, History of Modern China) (2009.4.1–2010.3.31)
Abliz Kurban (Kyoto University, Law) (2009.4.1–2010.3.31)
Miyata Nana (Bonn University, History) (2009.4.1–2010.3.31)
Nakajoh Daisuke (ICU, Musicology) (2009.4.1–2010.3.31)
Nishida Masayuki (Australian National University, Anthropology) (2009.4.1–2010.3.31)
Ohashi Natsuko (Edo Tokyo Museum, Art and Archaeology) (2009.4.1–2010.3.31)
Okamoto Yoshiko (ICU, History) (2009.4.1–2010.3.31)
Takeshita Kazuaki (ICU, History of Modern France) (2009.4.1–2010.3.31)
Toda Maki (ICU, Welfare Sociology) (2009.4.1–2010.3.31)
Zhan Haiyan (The University of Tokyo, Comparative Culture) (2009.4.1–2010.3.31)

7. Research Assistant:

Jung Jaehoon (History)
Miyazawa Eriko (History)
Okamoto Yoshiko (History)
Takasaki Megumi (Anthropology)
Tanaka Yūsuke (History)

8. Part-time Secretaries:

Aikawa Kyōko, Matsuda Rie, Matsumura Yūko